

「観光振興課（観光協会提供）」

○12月観光情報

【栗田美術館特集陳列 伊萬里焼の変遷と銘】

銘とは主に茶道具を中心に形成された概念で、工芸品につけられた愛称や通称、商標などのことです。陶磁器に製作者や窯、製作者や商標などを記した銘款も一般的に銘と称されます。今回の特集では、伊萬里焼の大まかな変遷に併せて銘もご鑑賞いただきます。

前期からの引き続きの展示ですが、一部作品の入れ替えを行います。

日 時:9月18日(土)～2022年2月27日(日)まで

当面の間、時間短縮で開館しますので詳細につきましてはお問い合わせください。

午前10時～午後4時30分(最終入場は午後4時まで)

休館日:月曜日(祝日の場合翌日)、年末年始(12月27日～1月2日)

場 所:栗田美術館(駒場町)

入館料:一般1,250円(1,000円)、小・中・高500円(400円)()内は20名以上の団体料金

交 通:JR両毛線あしかがフラワーパーク駅より徒歩で約10分

JR両毛線足利駅より車で約15分

東武伊勢崎線足利市駅より車で約20分

北関東自動車道足利ICより約20分

東北自動車道佐野藤岡ICより約15分

問合せ先:栗田美術館 ☎0284-91-1026

【フラワーファンタジー 光の花の庭2021】

関東最大級500万球のイルミネーションに彩られた幻想の世界。

夜景鑑賞士が選ぶイルミネーションランキングでは6年連続で全国1位に輝きました。

100,000㎡の園内に500万球を超えるイルミネーションが瞬き、訪れる方々に毎年心温まる感動を与えています。

「光のバラ園」や「光の睡蓮」がパーク内を華やかに彩り、「光と花に彩られた幻想的なお城・フラワーキャッスル」もその鮮やかかつ繊細な光で訪れた人たちに大きな感動を与えます。神秘的な大藤棚も花びら一枚一枚をイルミネーションで再現しており、その美しさに、期間中は連日SNS等への写真の投稿が相次ぎます。

今年、光の魔法でフラワーキャッスル全面リニューアル致します。

日 時:10月16日(土)～2月14日(月)

(平日)午後3時30分～午後8時30分

(土・日・祝日)午後3時30分～午後9時

※12月初旬～1月初旬は、平日午後9時迄、土・日・祝日は午後9時30分迄となります。

場 所:あしかがフラワーパーク(迫間町)

料 金:(夜間料金) 大人1,100円、小人600円

交 通:JR両毛線あしかがフラワーパーク駅より徒歩で3分

JR両毛線富田駅より徒歩で約13分

「観光振興課（観光協会提供）」

東武伊勢崎線足利市駅より車で約30分

(例年、土日祝日はシャトルバスが運行される予定ですが、現在は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため当面の間シャトルバスの運行は休止となっております。)

北関東自動車道足利ICより約15分

東北自動車道佐野藤岡ICより約18分

【神迎祭(おかえり)】

旧暦10月(神無月)で国内の神々が出雲大社に集まり、旧暦11月1日にそれぞれ国元へお帰りになります。板倉神社の神様は、出雲大社とは親戚のため、残務整理で一足遅れて、旧暦11月初午の夜に帰ってくるといわれ、「神迎祭」が行なわれます。

夜になると氏子たちは神社に集合してお祓いを受けてから、村のはずれにある大前坂まで神様をお迎えに行きます。このとき「ダイショ、ダイショ、オムカイショ」と唱えながら賑やかに行きますが、そこから神社に戻るときは一言もしゃべらないで帰るのが特徴です。また、板倉神社の神様は非常に醜い顔をしているので人間に見られることを嫌い「この時に顔を見た者は3年以内に死ぬ」との言い伝えがあるため、必ず夜に行われます。この神事は足利市の民俗文化財に指定されています。

なお、現在は開催を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症の状況により、開催方法を変更して行うため、一般の方のご見学はご遠慮頂くこととなります。

日 時:12月12日(日)時間は午後7時頃～(予定)(毎年旧暦11月初午の日)

場 所:板倉神社(足利市板倉町)

交 通:東武伊勢崎線足利市駅より車で約15分

JR両毛線小俣駅より車で約5分

北関東自動車道足利ICより約20分

東北自動車道佐野藤岡ICより約50分

問合先:板倉神社氏子総代 中島様 ☎0284-63-1785

※留守の時は留守電に問い合わせ内容を入れてください。

【金山神社大祭(吹子祭)】

昔ながらの鍛冶技法の伝統を後世に伝える貴重な儀式「吹子祭」が、足利市福富新町の鉄工団地内の一角にある金山神社で厳かに行われます。この神社の祭神はかなやまひこのみこと鉦山・金属業を司る神様の金山彦命であり、本宮は岐阜県垂井町にある南宮大社です。大正13年に当時の関係者が、そのご分体を足利市伊勢町の飯成神社境内に祀りましたが、この後、昭和49年に現在地に造営し遷宮しました。

毎年12月、年1回の大祭では、鍛冶職にとって、もっとも大切なふいご鞆に感謝し、鉄工の神様に鉄工関係者の安全と繁栄を祈願します。足利鉄工協同組合・鉄工団地協同組合員から選ばれた5人の鍛冶鍛錬者たち(奉行:見分役。横座:親方[小槌をも

「観光振興課（観光協会提供）」

ち、指図する役]、先手2名：大槌により材料から形を作る役、^{ふいご}鞆：炉の管理役）が烏帽子、直垂白装束をまとい、力を合わせてひとつの新しい鉄の輪を鍛え作ります。会場には「トンテンカン、トンテンカン」と金床に金槌を打ちつける音が響きわたります。20分ほどで鉄の輪が完成し、代々続く鉄の輪につなぎ、新たな鎖として神社に奉納します。

なお、今年は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、昨年同様、役員による参詣のみを予定しております。鍛錬式等は中止となります。

日 時：12月8日（水）

大祭挙行（式典・奉納） 午前10時～

場 所：金山神社（足利市福富新町726 足利鉄工団地敷地内）

交 通：東武足利市駅より車で約10分

JR両毛線足利駅より車で約15分

北関東自動車道足利ICから約20分

東北自動車道佐野藤岡ICより約30分

駐車場：普通車8～10台

問合先：足利鉄工業協同組合事務局（足利商工会議所北事務所内2階）

☎0284-42-7545

【^{あくたい}悪口祭り】

京都の鞍馬山、奈良の信貴山と並ぶ日本三大毘沙門天のひとつ、大岩山毘沙門天では、大晦日から元旦未明にかけて恒例の^{あくたい}「悪口祭り」が開催されます。

この祭りは、一年間に積もった鬱憤を発散し、すがすがしい気分を新年を迎えられるよう江戸時代末期（慶応年間）に始まったもので、日本奇祭の一つとして知られています。また、^{あくたい}悪口祭りが始まったとされる江戸末期当時、疫病で亡くなる人が多く、厄病退散を願っていたそうです（大岩毘沙門天公式ホームページをご参照ください）。

大晦日の晩から元旦の未明にかけて、修験者の法螺貝の音に先導され、星空を仰ぎ、「バカやろう」などと大声を掛け合いながら山頂の大岩山毘沙門天本堂を目指します。ただし、^{あくたい}悪口に「ぼう」のつく言葉（例：びんぼう・どろぼう等）は禁句となっています。この^{あくたい}悪口祭りでは、信徒が悪口を言いながら山道を登って行く際、暗い山道を提灯で照らして行列を作っていたことから、提灯行列とも呼ばれています。

当日は大きな声を競う「悪口大声コンクール（参加無料）」も開催されます。「^{あくたい}悪口まつり」が終わり、日付が1月1日になると「滝流しの式」が行なわれます。

新型コロナウイルス感染症の状況により、フェイスシールド等の対策を講じながら開催致します。

日 時：12月31日（金）（毎年同日開催）

^{あくたい}悪口祭り大声コンクール 午後10時受付開始 午後10時30分開始

（旧サンフィールド駐車場にて）

^{あくたい}悪口祭りの提灯行列 午後11時～

「観光振興課（観光協会提供）」

場 所:大岩山毘沙門天(大岩山多聞院最勝寺)

交 通:東武伊勢崎線足利市駅より車で約20分

JR両毛線足利駅より車で約25分

JR両毛線山前駅より車で約15分

北関東自動車道足利ICより約30分

北関東自動車道太田・桐生ICより約40分

問合先:大岩山毘沙門天(大岩山多聞院最勝寺) ☎0284-21-8885

【八木節】

日本三大音頭の一つとされている、足利の郷土芸能「八木節」の公演資料をご覧頂いたり、実演を楽しんだりしてみませんか。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前にご連絡をお願い致しております。現在、実演は中止しております。)

場 所:八木節会館(福居町580-1)

内 容:八木節の公演等

料 金:足利市八木節連合会へご確認ください

交 通:東武伊勢崎線福居駅より徒歩で約10分

JR両毛線足利駅より車で約15分

北関東自動車道足利ICより約20分

東北自動車道佐野藤岡ICより約20分

問合先:足利市八木節連合会 ☎0284-71-1214